

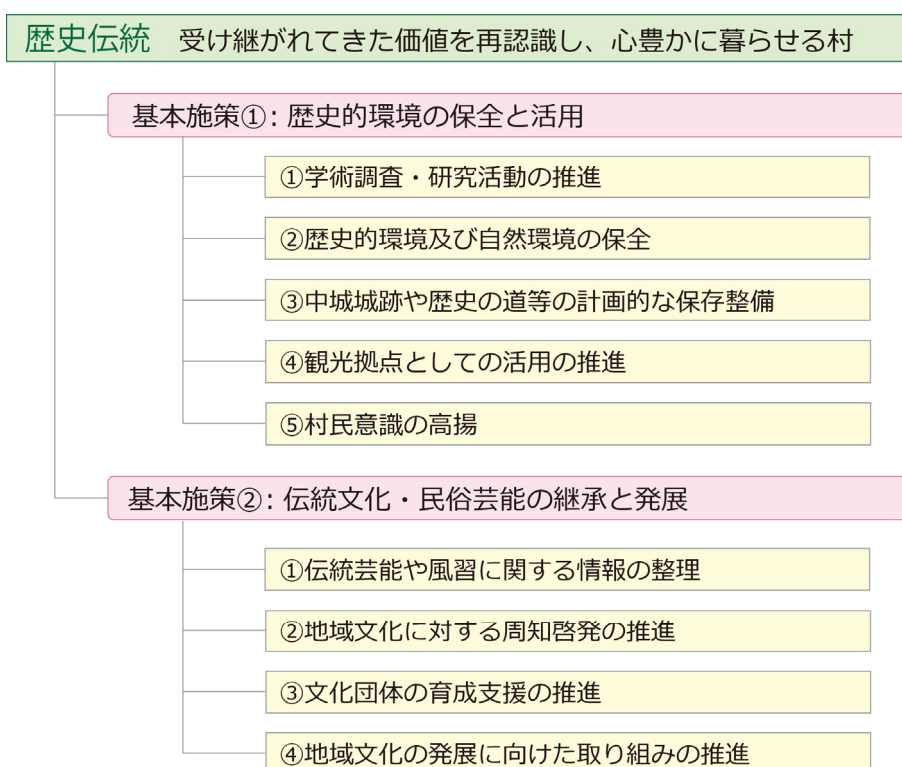
第2節 歴史伝統 受け継がれてきた価値を再認識し、心豊かに暮らせる村

(1) 基本目標

本村は、世界遺産に登録されている中城城跡をはじめ、安里のテラ^{※1}、伊舎堂前の三本ガジュマル^{※2}等の文化財や集落内における屋敷林や生垣、拝所、御嶽^{※3}等、様々な文化財、文化資産を有しています。それらを適切に保全し、次代へ継承を図るとともに、状況に応じた整備方針の検討や情報発信により、観光資源としての活用も視野に入れた取り組みを推進します。

また、村内地域それぞれの歴史、文化、伝統、環境を尊重し、さらに、本村の英雄である護佐丸など、郷土に対する誇りや愛着を育み、情報発信による周知を図っていくことで、受け継がれてきた価値の再認識に努めます。

(2) 施策体系



用語解説

※1【安里のテラ】子孫繁栄・無病息災などを祈願する拝所。県指定有形民俗文化財。

※2【伊舎堂前の三本ガジュマル】かつて中城城跡の近くにあった伊舎堂の集落は、何らかの理由により現在の地に移動してきており、一説によると、この三本ガジュマルは最初に移動してきた三組の夫婦が、それを記念して植えたといわれている。村指定史跡。

※3【御嶽】琉球の信仰における祭祀などを行う施設。

基本施策①：歴史的環境の保全と活用

【現状と課題】

文化財や歴史資産については、これまでも調査研究や整備が行われていますが、特に世界遺産に登録された中城城跡に関しては、保護・継承・活用に向けて、県営中城公園の整備、歴史の道^{※1}の周辺整備などのハード事業から、歴史の道ウォーキングの開催や歴史文化財案内人育成、HPの開設などのソフト事業まで様々な施策が展開されてきました。本村には、この中城城跡をはじめとして、新垣グスク^{※2}、ペリーの旗立岩^{※3}、護佐丸の墓^{※4}、安里のテラ、伊舎堂前の三本ガジュマル、泊の大クワディサー^{※5}など優れた歴史的環境が残されています。いずれも先人から受け継がれた本村の重要な歴史資産であり、村民の誇るべき共有財産です。

また、集落内に残る、御嶽や拝所などの祭祀空間等は、集落に密着した文化として重要であり、古くから本村の「とよむ」暮らしの基盤となってきました。

今後は、こうした文化財の保護・継承に向けた取り組み体制をさらに強化し、調査研究活動などによる実態把握に取り組むと共に、村内に残る文化財の情報を広く発信するため、展示施設の開設、解説・誘導板の設置やイベント等のソフト事業の充実を進めていく必要があります。

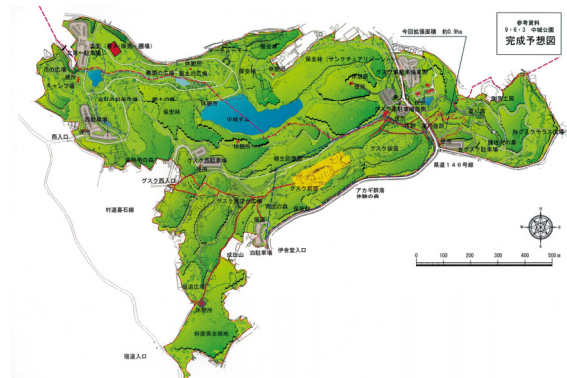
【実施施策】

① 学術調査・研究活動の推進

- 文化財の歴史的、学術的な調査・研究活動を継続して進め、文化財保護への取り組みを強化します。
- 中城城跡に関わる発掘調査や本村の歴史民俗資料などに関する調査研究などの成果を生かし、それらの常設展示と歴史学習の場となる拠点の整備促進を図り本村の村民に対して生涯学習の場とすると共に、観光客等を介し全県および全国に発信する場を目指します。

② 歴史的環境及び自然環境の保全

- 中城城跡周辺については、中城城跡の計画的な保存整備とともに、周辺地域と一体となった県営中城公園整備事業^{※6}を促進します。
- 集落の立地特性を生かし、先人たちより受け継いだ優れた環境の保全・育成を基本とし、とくに生垣、屋敷林の育成とともに拝所、文化財などの保全と環境整備に努めます。



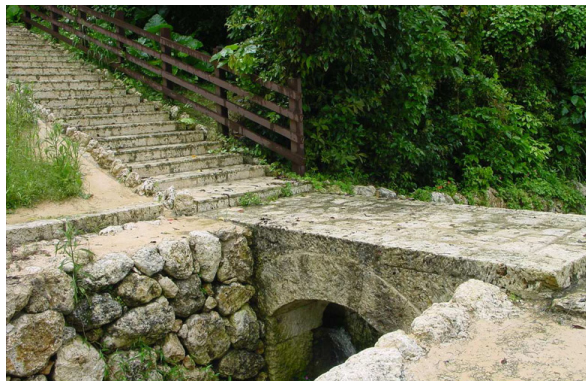
中城公園計画図

用語解説

- ※1【歴史の道】王朝時代、首里城と中城城を結んだ歴史ある道。現在は整備され、沿道にペリーの旗立岩や新垣グスクなどの文化財も点在する。
- ※2【新垣グスク】新垣集落の後方にあるグスク。地元では単に御嶽と称するのが一般的で、この一帯は集落の重要な拝所になっている。
- ※3【ペリーの旗立岩】新垣グスクの北方にある琉球石灰岩の岩。1853年に米国のペリー提督一行が日本遠征の途次、那覇に寄港し、本島を調査した際に、中城城跡の手前でこの岩に遭遇し、隊員が頂上に登って旗を立てたといわれることから旗立岩と呼ばれている。村指定史跡。
- ※4【護佐丸の墓】15世紀ごろ活躍した中城按司・護佐丸（唐名・毛国鼎）の墓で、台城にある。
- ※5【泊の大クワディサー】伝承によると、200年ほど前、首里王府から派遣されてきた中城間切番所の役人が任期を終えて離任する際、懇意にしていた泊村の人たちとの別れを惜しんで植えたものだといわれている。村指定天然記念物。
- ※6【県営中城公園整備事業】平成8年に策定された「中城公園基本計画」に基づき、平成9年から進められている整備事業。計画決定面積98.8ヘクタールで、「歴史、自然と共生する文化創造の公園」をテーマとする。

③ 中城城跡や歴史の道等の計画的な保存整備

- 中城城跡については、関係機関との連携のもとに、計画的な保存整備事業を継続していきます。
- 歴史の道については、計画的な保存整備事業を推進するとともに、完了後は、歴史の道とその周辺一帯を国指定文化財としての登録を視野に入れた取り組みを行います。



歴史の道(ハンタ道)

④ 観光拠点としての活用の推進

- 中城城跡を含め、村内に分布する数多くの歴史資源については、文化財としての保全を図り、これらを取り巻く歴史的環境や美しい自然環境が楽しめるよう観光の拠点としての活用を推進します。
- 斜面上からのダイナミックな眺望を楽しみながらハイキングや散策等様々な活用が図れる歴史の道の活用を促進します。



⑤ 村民意識の高揚

- 優れた歴史的環境を村民共有の地域財産として認識できるよう、文化財学習の機会創出や各種広報活動による文化財保護思想の普及とともに、保全地区の案内・表示板の設置、歴史散策ルートの設定など、保護・継承に向けた取り組みの充実を図ります。
- 本村の、貴重な歴史・文化（民俗芸能・祭祀関係等）や伝説などを掘り起こし、新たな中城発見ができるような機会を創出します。これは、中城村内がまるごと歴史博物館※1であるという意識の高揚を図る活動の核として、継続的な運営を行うものとしします。

用語解説

※1【まるごと歴史博物館】豊かな自然環境、多くの文化遺産、多彩な産業など、魅力ある中城村全域を屋根のない博物館としてとらえ、環境そのものを博物館とする開かれた博物館活動。

基本施策②：伝統文化・民俗芸能の継承と発展

【現状と課題】

伊集の打花鼓※¹、津覇の獅子舞※²などをはじめとする地域独自の伝統文化・芸能に関しては、地域に根差した独自の文化として、その価値を新たに見直し継承していく機運は高まっているものの、今後は、少子高齢化やコミュニティ意識の希薄化を背景に、独自の伝統文化の継承が困難になってくることが予想されます。そのため、広報周知の充実による認知度の向上や補助事業や助成メニューの導入により、地域負担を軽減しながら指導者等の人材育成などに取り組んでいくことが必要です。

また、長期的な視点での伝統文化の継承という側面においては、村内の民俗芸能の掘り起こしを実施し、年中行事や芸能、伝承等を記録して、次世代に残していくための体制整備が必要です。

【実施施策】

① 伝統芸能や風習に関する情報の整理

- 村内の民俗芸能についての文献調査、聞き取り調査を実施し、年中行事や芸能、伝承等の記録編纂を行うための体制を強化します。

② 地域文化に対する周知啓発の推進

- 村民ニーズに対応し、各種文化講演会、講座や展示・発表会など文化イベントの開催、伝統芸能の継承など、多様な文化事業の拡充を継続実施していきます。
- 文化情報の整備と提供に努め、定期的な周知広報を実施することにより、村民の文化活動への参加促進や地域文化に対する意識高揚を図ります。



伊集の打花鼓

③ 文化団体の育成支援の推進

- 村文化協会や各文化団体の育成を支援するとともに、自主的な文化活動の推進体制を強化します。
- 団体間及び広域的な交流など幅広い文化活動のネットワーク化を促進し、新たな文化創造に努めます。

④ 地域文化の発展に向けた取り組みの推進

- 多世代交流など地域における体験活動の機会を拡充し、若い世代の担い手を増やしながら、継続的な地域文化の発展に努めます。

(3) 成果目標

指標の名称	現況値 (平成 22 年度)	中間目標値 (平成 28 年度)	最終目標値 (平成 33 年度)
各種文化イベント開催数	4	5	6

用語解説

※1 【伊集の打花鼓】伊集に伝承されている中国風の民俗芸能。地謡と踊り手 11 名によって演じられる。中国風の服装、髪型は弁髪、歌詞も中国風。県指定無形民俗文化財。

※2 【津覇の獅子舞】五穀豊穡、無病息災、共同体の繁栄を祈願する祭祀として演じられ、舞の型としては、一頭で雌と雄を演じ分けるのが特徴。村指定無形民俗文化財。